

第2回 信濃町企業誘致推進委員会議事録

平成24年8月29日（水）10:00～

信濃町役場 公室

出席者：佐藤委員長（副町長）、浅野英彦副委員長、荻原一正氏、星野直信氏
三沢秀男氏、松木総務課長、佐藤産業観光課長（以後、産観課長）、荒井係長

1 開 会（浅野副委員長）

これより第2回企業誘致推進委員会を開催します。皆様、お忙しいと思いますので、効率よく議事進行できますようにご協力ください。

2 挨拶（佐藤委員長）

本日はお集まりいただきありがとうございます。本日の検討事項はご案内したとおりでございます。条例第6条に基づき委員の過半数を超え、会が成立していますので次第の検討事項から進めさせていただきます。

3 検討事項

1) 企業誘致可能土地について

係長 企業誘致可能土地について報告します。現時点で、企業誘致可能土地は学校跡地（富士里、古海）の他、以前工場のあった土地をメインに考えています。本日、紹介するのは信越オリエクスが町内で所有している土地3箇所と町が持っている土地です。

1か所目として、国道18号線にあり場所（景色）的には良い所なのですが、この土地への出入り口がありません。今のままでは出入り口が無い土地、約4,000㎡です。

2か所目は、旧スルスギ分校跡地と言ったほうが皆さんには判かりやすいかと思えます。約1,900㎡あります。こちらは旧分校ですので、隣にグラウンドがあるのですが、こちらの土地はオリエクス所有ではございません。県道に接した出入り口があります。

3箇所目は、穂波のセブンイレブンの裏土地です。穂波のセブンイレブンの土地もオリエクスの土地ですが、この土地も含め、周りの土地はできればセブンイレブンに買ってほしいと思っているようです。

次は、町民の森です。約494,000㎡もある膨大な土地です。こちらに企業誘致の1つでも、と町長の考えもあるようですが自然保護をとなえる方が多くいますので、企業誘致をするにしても、事前にエリアを指定しないかぎり、企業が決まってからのこの場所への誘致は難しいかと思っています。町の所有で1か所にこれほど大きな土地が他にありませんので紹介させていただきました。

2) 企業誘致補助について

係長 企業誘致の補助につきましては、条例に定めてあります。『各市町村との比較を』ということを前回の委員会で求められましたので、近隣市町村の企業誘致条例に基づく補助金、あるいは減免について調べてきました。簡単に説明しますと、信濃町の場合は工場敷地部分、取得価格の25%の補助金が出せるようになっています。また固定資

産税も3年間の補助をしています。唯一、信濃町が他の市町村と違うというのはこの土地取得価格の25%の補助。他の市町村は全て上限がありますが、信濃町の場合、上限がありません。これがすごく魅力的な事なのかどうなのか判りませんが、現在の条例に記載されております。例えば、土地取得に何億円という企業が来た場合は、町はその何億円の25%を負担するという事です。

委員長 条例に関しまして、「新設の場合・増設の場合の投下資産のいくら以上、及び雇用人数の条件を満たしている」ということも条件もあります。

総務課長 取得価格の25%と言いましたが、「25%以内で予算の範囲内」ということですね。必ずしも25%を支払うということではないと。

委員長 そうですね。文面からいくと「以内の額」となっていますので、課長のおっしゃるとおり。予算の範囲内ということもあります。

係長 ただ、補助予算を定める際に、どうしてこの金額になったのかという根拠を示さない限り、なかなか難しいと思います。

総務課長 例えば、10億円で取得したなんていう場合は、町は払えない。

委員長 土地全部で10億円となっても、「工場敷地」と書いてあるので、工場の建物の敷地が対象。

3) 現状報告

- ・現在訪問等している企業について（担当係から）

係長 それでは現状報告をさせていただきます。

－企業訪問等の内容について報告－

- ・企業情報について、町内既存企業について（各委員から）

委員 私が紹介をかけたのが2件。2社からの反応は「資料としていただきました。データとしていただきます」といった内容。それからこれからちょっとやってみたいのが、ホテル関係とスポーツ団体の合宿所。ホテルですが集客は基本ホテルでやります。ある程度、風光明媚であればというのが選択基準。ですので、少しは可能性があるのかと思っています。2つ目に挙げた合宿所というのは、ロンドンオリンピック見ていて、合宿施設を以外に各団体が持っている事がわかった。ですから通年使えるところであればいいのではないかと考えた。

委員長 今のところ進展はないけど、データとしてということ。それから、ホテルに関してはホテルとお話しいただけるということで。信濃町も風光明媚な場所もございますので。

委員 そうですね。一年中ある意味、観光をやれると美しい。基本的にはお客さんというのは、長野は〇〇ホテルもありますが、中国人と韓国人の団体が主ですね。その団体は関連ホテルを回遊する。例えば大阪の関西空港に着くなり伊勢の方へ行ったり、それから能登に行ったり、長野県では屋代とか松代とか観光地を巡っている。日本人が考える観光地と彼らは違う。だから信濃町もある意味、これらホテルを誘致するのも有りなのかなと思います。

委員長 引き続き情報収集をお願いします。それとスポーツ団体に関してはまだ、想像の域というところですね。

委員 ロンドンオリンピックを見ていて思いついた限りです。

委員長 町に関してはスポーツの集客というのは、結構NPOでやっています。特にマラソン関係。3点に関してはもう少し進めていただくということで。他の委員の方で情報がありましたらお願いします。

委員 「黒姫の水」のチラシが新聞折り込みで入っていました。これを見ますと観光協会で行っているようですが、信濃町で雇用を増やすという視点から見ますと、「黒姫の水」の販売量が増えれば、当然、製造もありますので増えるのかもしれませんが。本当に品質が良ければ、高級ホテルで1本500円～800円という値段で販売ということも可能です。

委員長 水に関しましては、観光協会が行っていることですが企業誘致という面でもお考えということですね。

委員 大手の企業に売り込み、本格的に工場を建てていただいて水が売ればと思っています。

委員長 大手の企業についてアクションは何もしてはいなく、想像の域ということですね。

委員 成分分析があれば大手に話を持っていく事も可能です。

委員長 水利権という部分は非常に大事なところの話になりますので、意見ををお願いします。

総務課長 水道水源として使われていますので、調整が必要だと思います。

委員 信濃町の水保有量というか、湧水の量は、信濃町の使用料に対して、何倍くらい余裕があるのですか。

産観課長 水源として利用はありますが、信濃町全体の湧水量を調べたという事はない。しかし、地下水は20～30年前、県の土木部などいろいろな機関で調べられて、「ここ掘れば地下水がある」といった結果はあります。信濃町はものすごく多く地下水があります。

総務課長 大久保の溜池あります。高速道路で新潟県の方へ下がっていくということで、溜池の水

がなくなると心配され井戸を掘りました。信濃町のあの高台で井戸を掘って水が出てくるのですから、いっぱいあると思います。

委員 県の土木部で調べたというのは、水質の分析はしていないのか。

産観課長 成分調査はしていません。

委員 健康にある程度有効な物質があるとか、コマーシャルができなければ売れる。

総務課長 水の話は他（観光協会とか）で進めている。そういうマネで水が売れるかどうかという問題もある。

委員長 企業誘致という観点で、一番気を付けなくてはいけないのは、外国人だと思います。特に△△。信濃町でも議会で出ていました。一番は我々普段の生活の水としての活用が大前提。企業に働きかけも、よほど信濃町の水を気に入っていただければ別ですが、今後もよほどそのいいものがない限り、今のところ水の話は保留のままでお願いします。

副委員長 ●●が堆肥を積んだところがありますね。産業観光課にも申請があるかと思うのですが、自社で豆腐を作った後のおからを積んでおく。それを臭くしないようにする発酵菌を自社で見つけて、あんまり手を掛けなくてもいい菌ということで、信濃町で農場や野菜作りをしています。循環農業で豆腐を作った時にでるおからを肥料へ。その肥料でまた大豆を作る、という循環型の農業を目指していると聞いています。「工場をこちらへ持ってくる予定はないのか」と話をしていたのですが、具体的に今のところないようです。この地域にぴったりの産業かなと思っています。

前回、女性の意見も入れたらどうかという話がありましたので妻に聞きましたところ、〇〇のような商店をこの辺につくってほしいという事でした。客は妙高からも来るし、結構マーケットとしては良いのではないかと思います、いかがですか。

総務課長 地元企業の存続にもかかわる事ですので。

委員長 信濃町で続けている企業でもありますし、町としては動くことはできません。委員会としても、今ある業種を圧迫するのはできれば避けていきたい。同一業種で〇〇もあり、地元の地産地消に積極的に取り組んでいます。●●も〇〇も雇用面では大変協力いただいている企業でもあります。

総務課長 もう1社入っても問題ないような人口なら良いのですか。

委員長 私も個人的ですが、高速道路のインターの周りにアウトレットのようなものを考えていたのですが、あまり大胆に行くと□□や■と競合してします。

総務課長 野尻も古海も売店が無くなってきました。住民としては柏原まで買い物に来るのは大変

だと思ふ。

副委員長 どういった業種をといたターゲットを絞ってグループで訪問を行ったりとかできませんか。

産観課長 家で介護施設に入りたくても待機している人たちがいます。おらが庵がこの春に増床しました。介護施設を誘致しても、おらが庵も社会福祉協議会も圧迫しないか関係者に聞いてみなくては判らない。私としてはこういった施設はもう1つくらいあっても良いと思っている。必要に応じて担当に来ていただくという事でどうでしょうか。

委員長 後、業種の勉強会を行ってみるとか。

委員 先ほどの水の話ですが、専門家を呼んで話を聞くこともいいかと思ひます。

委員 施設の関係は大手企業であればある程度、数年先の計画を持っているはず。相手に少しでも気持ちがあれば可能性はあるが、計画が無いと難しい。長野市の場合には地域医療計画というものを決めてるので、ある程度バランスが取れてきている。次のステップとして周辺地が候補地として考えられるが、決断を出している施設は今のところない。

産観課長 特別養護施設は人口を増やすことを目的とするならとてもいい。

委員 介護施設については、一回、案内を出してみても反応をみても手だと思ふ。信濃町はウェルカムである事をPRする必要がある。都市型そして環境を重視する企業なので、信濃町は環境型として適切だともう。しかし、今の流れは観光地にあたりする。勿論信濃町も観光地ではあるが、有名観光地というレベルには達していない。ですから、案内を出して反応を見ることは重要だと思ふ。

副委員長 委員会として情報を得るために、アンケートを取ってみるとかやってみるのも一つの方法かと思ひます。

委員長 先ほど係長から報告のあった訪問企業だけではネタは尽きてしまう可能性もあります。同時に皆さんと議論をする中で方法を考えていきたい。

4) その他

・次回開催 11月定例会

(年4回 5月・8月・11月・2月を定例会 その他必要に応じて開催)

係長 今年、既に視察を2回行っています。高知県梶原町へは町長に同行してきました。すべての自然エネルギーを利用している自治体です。水力、風力、太陽光、火力、地熱。使っていないのは原子力くらいという自治体なのですが、信濃町はどのエネルギーを活用するのがベストかみてきました。結果として、信濃町で取り入れられるのはバイオ系が一番良

いのはとなりました。山梨県には佐藤副町長や森林組合、チップのボイラーの導入を考えている町内企業の取締役と共に視察してきました。単価比較するとペレットは灯油並み、チップは重油並み。大手企業になれば、単価が灯油並みのペレットより重油並みのチップの需要の方が多くなるのではという結論。

次に、広報しなのです。広報は皆さんのご家庭に配布されますので、ご覧になられると思いますが、第1回目の企業誘致推進委員会の事がかかれています。

次に、前回委員会で委員からの提案のあった自転車を使った町おこしイベントという事ですが、既に自転車を使ったイベントが妙高市にて執り行われていますといった報告です。

次に、11月開催の第3回定例会についてです。町が今考えていますバイオボイラー、バイオ発電について雪の降る前に視察に行いたいと考えています。これらバイオ系は自然エネルギーのひとつとして進めていることなのですが、推進委員の皆様にもどういったものかを見ていただく事も重要と思いましたので◎◎◎の視察を11月定例会としたいという提案をさせていただきます。◎◎◎にはまだアポイントを取っていませんが、視察で良いという事でしたら準備を進めさせていただきたいと考えています。

委員長 先ほど、議論して方向を決めるという事も重要ですが、冬に視察に行くのは大変なので、雪のない時期、11月の定例会に行ければといった案が出ました。次回、視察に行くという事で準備をさせていただいてもよろしいでしょうか。

— 同 意 —

委員長 時間があれば、視察だけではなくて戻ってきて議論する場もあってもいいのかと思います。

4 閉 会

委員長 それでは、予定時間ともなりましたのでこれにて閉会とします。

閉会 11時30分